

三本松沢中俣

L_中

一九八一年八月三〇日

九時四〇分、下降開始。平凡な下りで、満足な滝もないまま、左俣出合到着。そこから少し下って、今朝遊行していった右俣出合。もう滑谷沢本流は目の前であった

右俣には滝やナメが多いのに、左

三本松沢右俣

L_中

一九八一年八月三〇日

滑谷沢を下り、滝の下をくぐって支流の三本松沢に入る。入るとすぐナメ。吾妻の大滝沢のミニサイズとあったところ。二つのナメを越える

俣はつまらなく物足りなかった。尾

根一本の遠いで、こんなに違ってくるとは……………。(記・……………)

「タイム」 下降開始(九:四〇) ↓滑

谷沢本流(二:二五)

とすぐ二俣。右俣に入る。

右俣に入ると、まもなく滝が出てくる。沢幅も狭く、水量もたいしたことがないので、スケールの大きな

ものはない。しかし、すべて直登できるので楽しい。

ナメを過ぎると、F7五段が出てくる。白糸の滝といったところで、登れないこともないが、シャワーがいやで捲く。

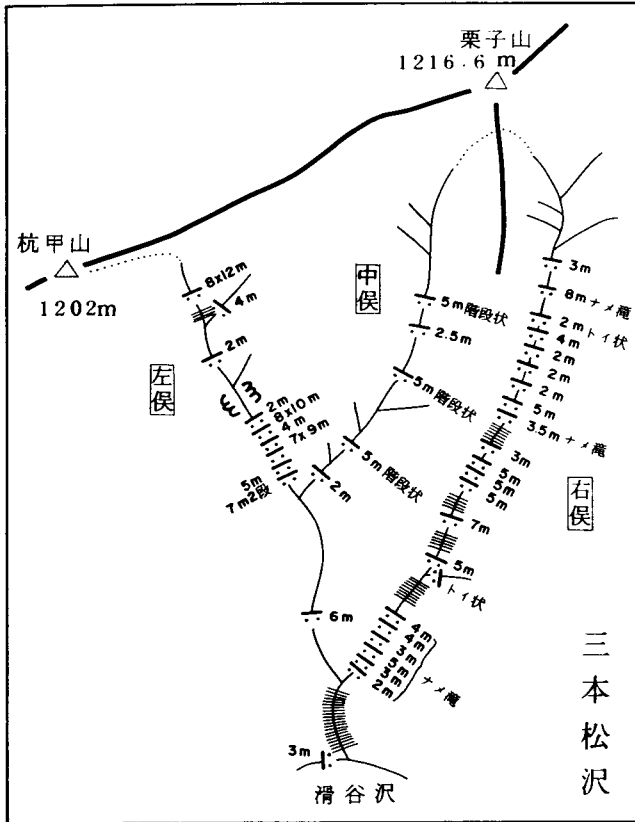
この上にも滝が続く。下流のそれより大きな滝である。F9、10、11と三段になって落ちていく。この沢の核心部といった所である。この上にも滝は続く。

水量も少なくなり、ヤブがかぶってきて、急傾斜となってくる。やがて水が涸れ、なおもやぶをこぐと、栗子山直下の広い尾根に出る。木は茂っているが、木に登ると吾妻連峰がくつきりと見えた。

(記・……………)

「タイム」 三本松沢出合(七:一五)

↓右俣終了(九:四〇)



三本松沢

温帯の代表的な樹木①

ブナ (ブナ科)

五月の新緑、秋の紅葉の美しさは格別である。日本温帯を代表する樹木である。

ブナは「樺」と混わされ、木の無用なものとして位置付けられている。

近年、乱伐に次ぐ乱伐が行われ、今日では原始の姿をみつけることのできる山域は限られた所となってしまう。

摺上川流域でも、ブナの伐採跡地は至る所にみられる。以前はブナの宝庫であったろう。いずれは消える運命だろうが、林道のない奥地には、若干ながら原生林が残っている。(大西)